新潟大学国際センター紀要　第３号　31 - 48，2007年　　Journal of the International exchange Support Center
2007, Vol. 3: 31 - 48, Niigata University

日本事情科目（Ｇコード科目）実施見直しのための教員・学生意向調査
2003年度―2006年度分

A Report of the Survey on the NIHONJIJYO（Japan Studies in Various Fields）Subjects
―G-code subjects held between 2003-2006 at Niigata University―

池田　英喜*
（ikeda@isc.niigata-u.ac.jp）

日本事情科目については、以前から複数の教員から実施についての疑問の声が上がっていた。その声は、例えば「学生にとって本当に有益な科目の提供ができているか」「あるいは「学生が本当に授業を理解しているか」というものであった。国際センターでは日本事情科目の管理運営を任されているという立場から、こういった科目の具体的な見直しを図るために、授業担当教員からの声を集めることにした。

This is a Report of the Survey on the NIHONJIJYO subjects which have been held every year to help undergraduate foreign students to understand what is now going on in Japan and what they should know about very basic social, legal and scientific history of Japan. I did this survey because I heard some complaints about those subjects from some lecturers in charge of them and also because at ISC we agreed that it is time to renew those subjects into more effective ones.

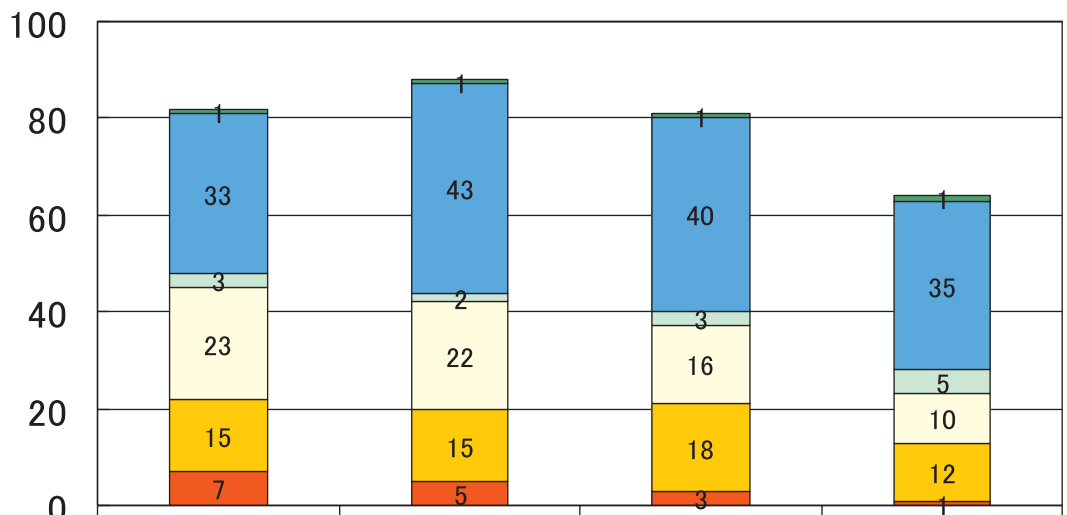
１．はじめに

この調査は、国際センターが取りまとめ運営を担当している、Gコード科目・日本語/日本事情の中の日本事情科目についてのものである。これは、これまでに実施されてきた日本事情科目について、内容・授業形態等の見直しを図り、より効率的に運営するために行うもので、本稿では池田が実施したアンケート調査等の結果について考察を行う。

２．聴講者数と正規学部留学生数

アンケートの結果を見る前に、どれくらいの数の正規学部留学生が、どの部局にどれくらいいて、その中で、実際に日本事情科目を何人くらいが受講しているのかを洗い出した。以下にそのデータを示す。

* 国際センター　助教授

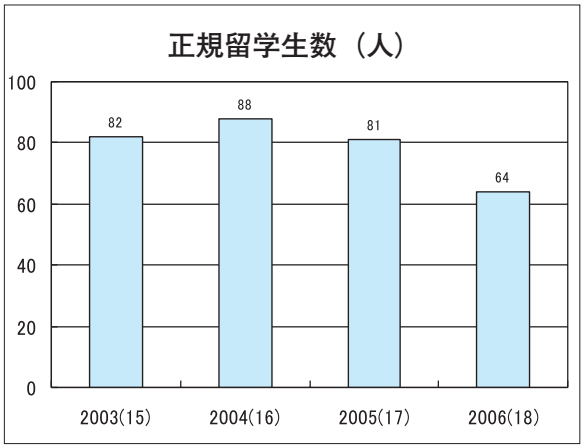


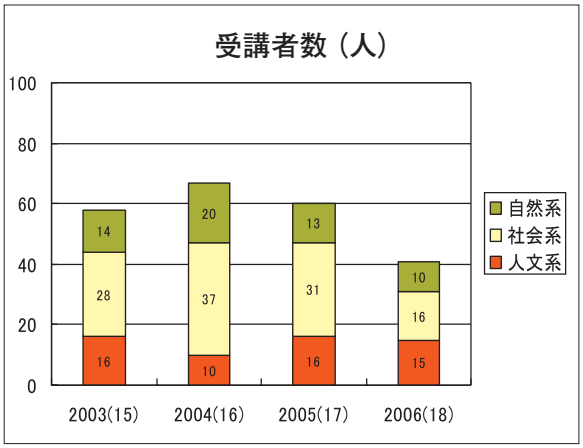
	2003(15)	2004(16)	2005(17)	2006(18)
農	1	1	1	1
工	33	43	40	35
理	3	2	3	5
経済	23	22	16	10
法	15	15	18	12
人文	7	5	3	1

2003（平成15）年から2005（平成17）年までは80名を少し超える正規学部留学生で推移していたのが、2006（平成18）年度には急に60名ちょっと落ち込んでいる。

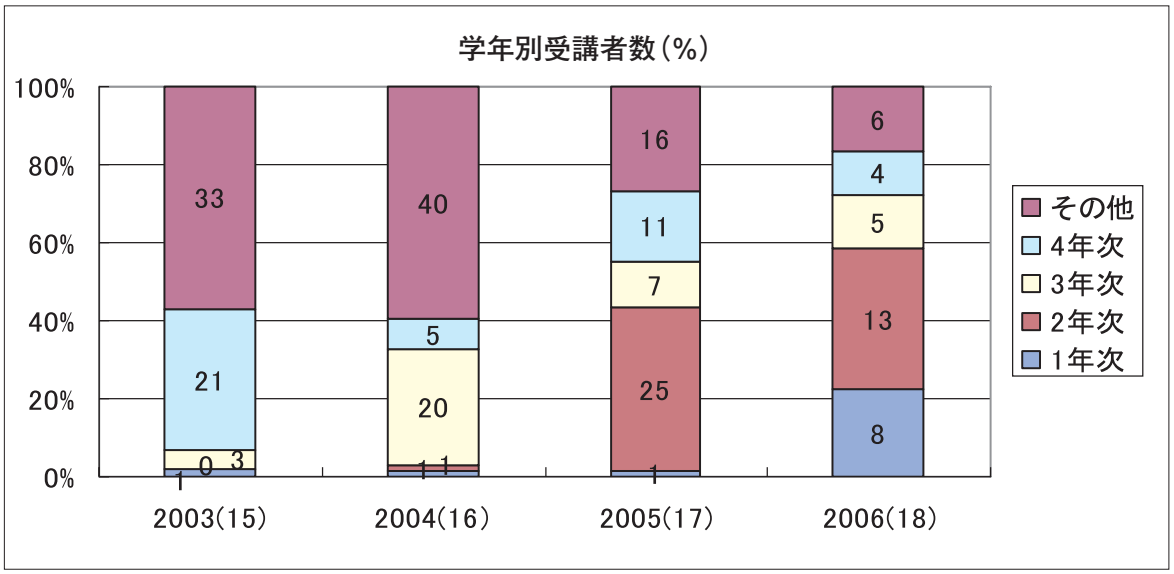
次に、正規留学生数と日本事情受講留学生数を示す。

左が正規留学生数、右が日本事情受講者数だが、留学生数に対する受講者数の比率は、2003（平成15）年度70％、2004（平成15）年度76％、2005（平成16）年度80％、2006（平成





17） 年度64％と推移している。これには特別な意味を見出せるほどの変化はない。



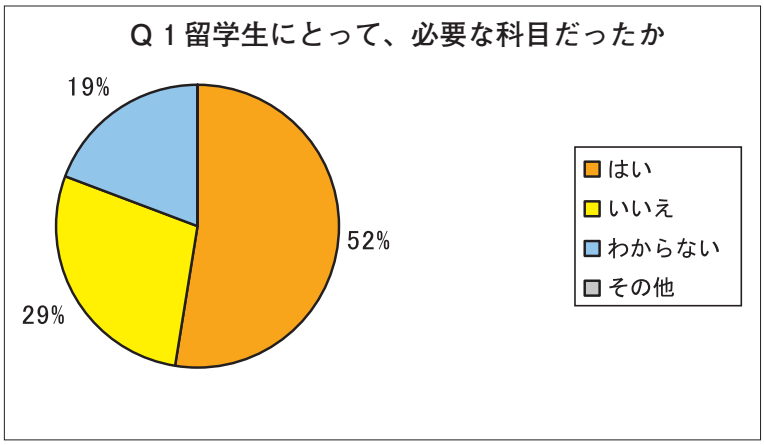
※2006（平成18）年度データは前期分のみ

続いて、学年別の受講者数を推移を見る。2004（平成16）年度以前と2005（平成15）年度以降では明らかに受講者の学年層に違いが見られるのがわかる。通常日本事情科目は１年生、もしくは２年生で受講してしまうはずだが、2003（平成15）年度と2004（平成16）年度は４年生３年生での受講者が多い。他の授業との時間割の都合でこうなったものか、３年次編入生が増えたためにこうなったのか、このデータだけからでははっきりとしないが、専門課程に入る前に履修してしまうという授業科目の性格から考えると、2004（平成16）年以前のあり方に違和感を覚えるのは私だけではないだろう。

３．教員アンケート結果

2003（平成15）年度から2006（平成18）年度までに日本事情科目を担当した経験のある教員全員（41名）にアンケートを送付し、得られた回答（21名）をここに示す。

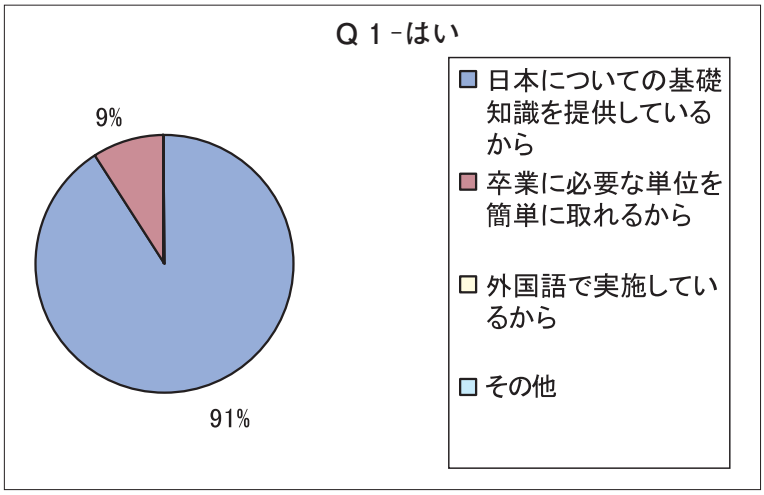
Ｑ１　留学生にとって必要な授業科目だと思われましたか。



担当した教員の半数は日本事情科目を必要だと思っているようだが、29%はそう思っていないというのはかなり問題があるだろう。わからないという回答も含めると実に半数近い教員が実施に疑問を抱いているということになる。留学生にとって卒業のための必修科目ではないことが唯一の救いというべきか。

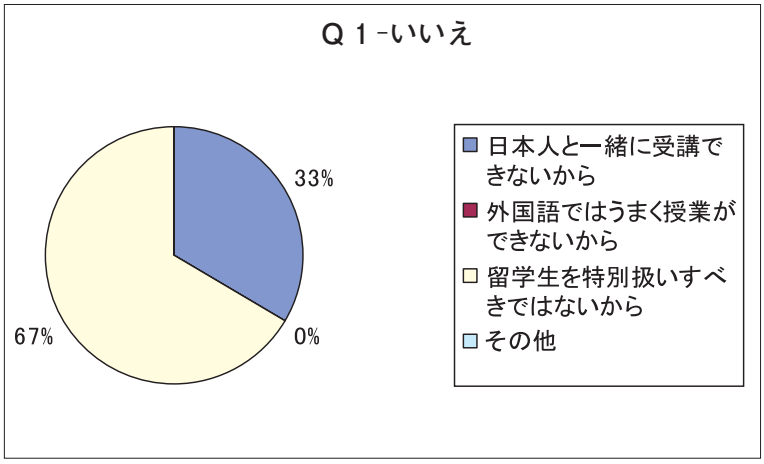
こんな科目を取ってしまった留学生は不幸である。

Ｑ１　「はい」の場合



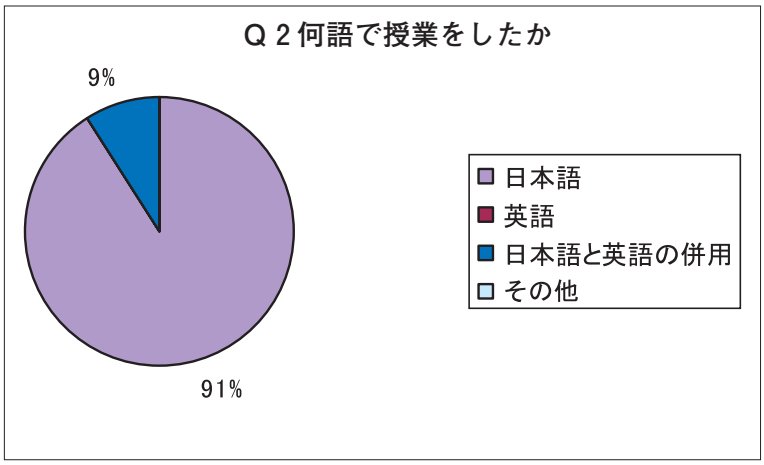
「はい」の回答の中に「卒業に必要な単位を簡単に取れるから」と言うのがあるが、学生側からこのような回答が出るのならまだしも、教員側からこのような回答が出てくるようでは、大学教育の質を問われる。もちろん単位取得が難しければよいというものではないが、「簡単に単位が取れる」という教員の態度には問題アリだろう。

Ｑ１　「いいえ」の場合



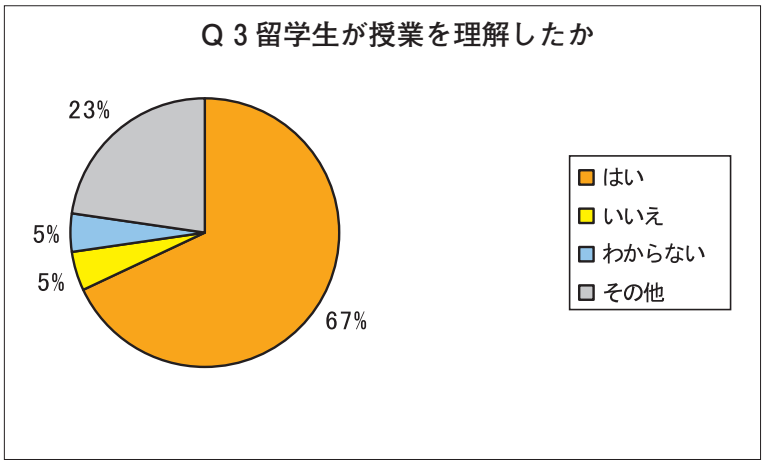
「いいえ」の回答は、ある意味で非常に全うなもので、留学生とはいえ日本人と同じ授業を受講するべきであるという主張が基本となっている。

Ｑ２　授業は何語で行ないましたか。



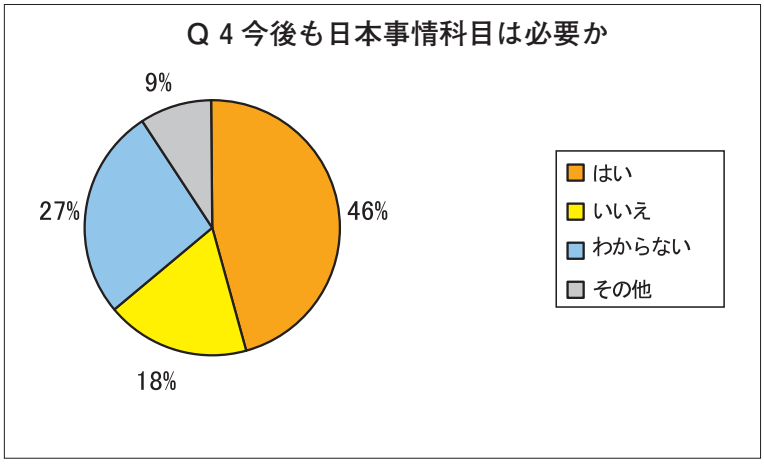
必要に応じて日本語と英語が併用されている授業が多いと思っていたが、意外にも日本語だけで授業を実施している教員がほとんどだった。

Ｑ３　留学生は授業内容を理解していたとおもいますか。



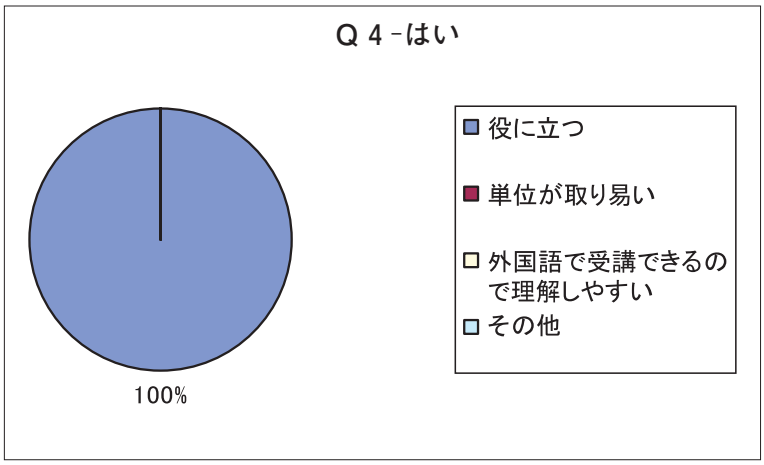
日本語のみで授業が行われている場合が多かったにも関わらず、概ね授業を理解していたと考えられる。いいえ・わからないは合わせても10%にすぎない。

Ｑ４　今後も日本事情科目は必要だとおもわれますか。



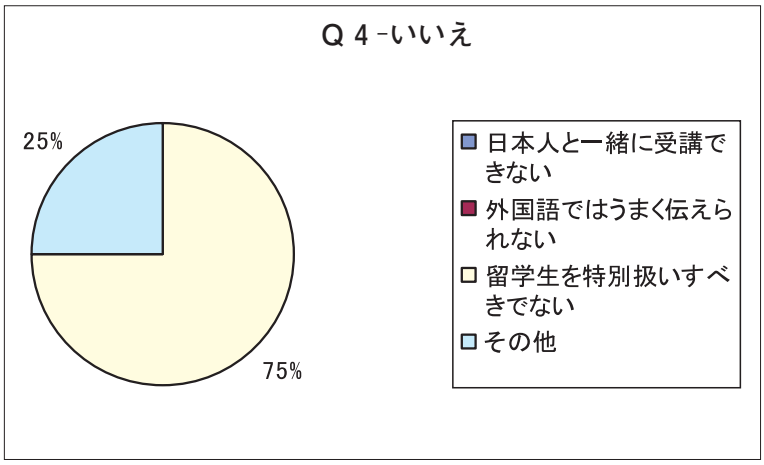
今後も必要という声は少なく、46%と半数に満たなかった。

Ｑ４　「はい」の場合



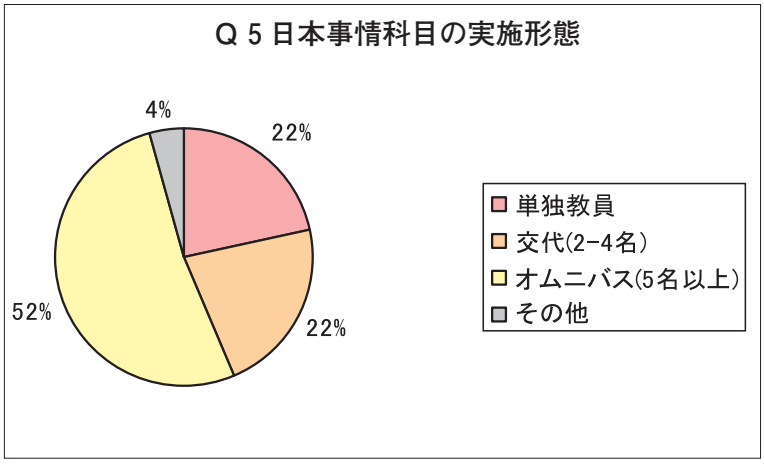
「はい」の場合と「いいえ」の場合の回答を比べてわかるとおり、留学生にとって役に立つ授業なので実施すべきなのだが、留学生だけに役立つ授業ではなく、日本人学生と一緒に学べるような授業を提供していく必要があるという、今後の日本事情科目のあり方が浮かび上がってきている。

Ｑ４　「いいえ」の場合



Ｑ１でも出たが、留学生を特別扱いすべきでないという基本姿勢が必要だと思われる。

Ｑ５　日本事情科目の実施形態についてお尋ねします。

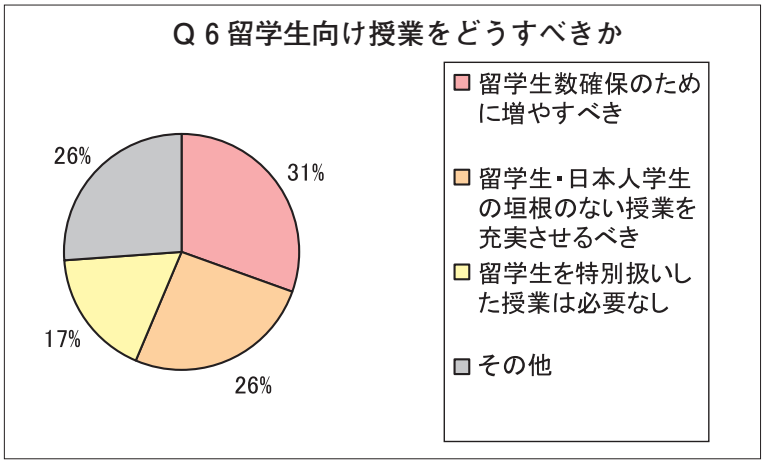


授業形態については、一概になんとも言えない。やはりはじめに何を教えるかがまずあって、そのためにどういう授業を展開すべきか、そのために何人の教員を15週間の中に配置すべきかが決められなければならない。

今回の調査では日本事情担当教員をどうやって決めてい

るかなどのプロセスには触れなかったが、部局内で、特定教員の授業負担過多にならないように持ち回りで実施しているという話も聞く。今後は授業数を現行の６から減らしてでも、内容重視のものに切り替えていく必要がある。

Ｑ６　Ｇコード科目は学部学生を対象としたものですが、学部の留学生は日本語能力試験１級合格が前提になっています。その点を踏まえて伺います。



留学生のために特別な授業を展開するのではなく、日本人学生と留学生が同じように授業を受講できるような体制を整えていくべきだと感じている教員のほうが若干多かった。

ただしそのためにはもし日本語で授業をするなら日本語のレベルのかなり高い留学生だけを入学させる必要があるし、英語で授業をするなら、語学の教員ではなく、専門の教員でありながら、外国語で授業ができる教員を確保していくことが今後必要になってくる。

４．学生アンケート結果

残念ながら、学生アンケートは実施した時期が悪かったことと、学生が普段利用しているメールアドレスがはっきりしないことが理由で、約100名に送付したアンケートに対して９名の回答しか得られなかった。よって、データ自体はグラフ化せず、数値だけを表にして以下に示す。

Ｑ１　留学生にとって必要な授業科目だと思うか

はい	いいえ	わからない	その他
9	0	0	0

Ｑ１-「はい」の理由は（複数回答可）

日本についての知識が身に付いた	単位が簡単に取れた	どうしても聞きたい内容だった	その他
6	3	1	1

アンケート自体の内容は教員に対して実施したものとほぼ同様になっている。

結果を見ると留学生地震はやはり日本事情科目の必要性を実感しており、その理由の一番大きなものは日本を知ることができたということである。また、今後

Ｑ２　授業は何語で受講したか

日本語	英語	日本語と英語	その他
5	0	4	0

Ｑ３　受講していた留学生は、授業内容を理解していたと思うか

はい	いいえ	わからない	その他
5	0	4	0

Ｑ４　今後も日本事情科目は必要だと思うか

はい	いいえ	わからない	その他
9	0	0	0

Ｑ４-「はい」の理由は（複数回答可）

役に立つ	単位が取りやすい	外国語で授業が受けられる	その他
9	3	0	0

Ｑ５　受講した日本事情の授業形態は

単独	交代（２－４名）	オムニバス（５名以上）	その他
3	2	3	1

のことについても、外国語で受講できるから、単位が簡単に取得できるから役に立つからという、ある意味でネガティブで消極的な理由からではなく、日本を知ることができるからというポジティブで積極的な理由から、実施を望むという声が多い。

５．まとめ

以下、いくつかの点についてまとめ、私のコメントを添える。

- 日本事情科目の存続について
  日本事情科目は今後も継続させる必要があるとはっきり述べる教員は半数に満たなかったが、科目継続に否定的な教員のコメントには、内容や学生の日本語レベル等諸条件をクリアしさえすれば、存続自体には否定的ではないような印象を受けた。

- 日本事情科目の内容について
  いったい、専門科目の基礎的なことを講義するのか、それとも市民向け講座のようにごく一般的なことを講義するのかがはっきりしない、わからない授業担当者が多かった。

最初どのような形で始まったものであれ、現在はＧコード科目でしかも全学の留学生対象に開講されているという点を考えれば、後者の色合いが濃いものを提供する必要があるだろう。この点に関しては、国際センター主導で科目のガイドラインを設定して、来年度以降の授業を以前同様に部局にお願いするか、全体的に国際センターが運営する形にするかを、至急決定すべきである。私個人としては、部局にお願いして科目を出してもらう形を廃止し、センターで授業内容を練った上で、現在の日本をいろいろな面から紹介するような形の授業を出して行くことを考えている。もちろんその際には、どういう内容で、いつ担当していただくかをかなり事前に各部局に照会した上で、適任者を推薦してもらって担当してもらうという形にしたい。

- 授業で使用される言語について

これについては、留学生側からおもしろいコメントがあったので、それを参考にしたいと思う。コメントはこうである。「…日本事情科目だと使用される日本語が簡単なので…。」全文は後の付録に掲載してあるのでそちらをご覧いただきたいが、私を含めた国際センターの日本語教員が全学の教員に向けて何らかの動きを見せる必要があると強く感じた。留学生にとって簡単な日本語で授業をするというのは、一言で言うと、単に簡単な語彙で授業をするということではなく、できるだけ１文を短く、しかも極力複文を用いず単文で講義するということを意味する。語彙レベルなら、辞書さえ引ければ何とか理解ができるが、文の構造自体は日本語の力そのものが向上しないと理解できるようにはならない。これを実践するのは、簡単なようで、ある程度トレーニングを積まないとなかなか難しい。ましてや授業担当教員の専門は言語学ではないので、何でそんなことをする必要があるのかという方も多くいるだろう。ただ、最近では日本人学生の日本語力も怪しくなってきつつあるので、国際センター主催のFD等の実施で、教員に対する啓蒙活動は可能かもしれない。ついでなので書かせてもらうが、日本語力が極端に低い正規学部学生は現に存在する。日本語を担当している我々国際センターの教員からすれば、なぜ無責任にそんな留学生を入学させるのか、部局の運営そのものを疑いたくなることもある。また、日本語力が低くても入学させるのであれば、せめてその部局の教員には全員、簡単な日本語で講義するためのトレーニングの受講を義務化させていただきたい。

6．付録

教員向けアンケート

これまでに日本事情科目を御担当いただいた先生にお尋ねします。

質問1 留学生にとって必要な授業科目だと思われましたか。	□	はい	□	いいえ	□	わからない	□	その他
「はい」とこたえた方にお尋ねします。それはどうしてですか。	□	日本についての基礎知識を提供しているから。	□	卒業に必要な単位が簡単に取れるから。	□	外国語で実施しているから。	□	その他
「いいえ」と答えた方にお尋ねします。それはどうしてですか。	□	日本人と一緒に受講できないから。	□	外国語ではうまく内容を伝えられないから。	□	留学生を特別扱いしているから。	□	その他
質問2 授業は何語で行ないましたか。	□	日本語	□	英語	□	日本語と英語	□	その他
質問3 留学生は授業内容を理解していたとおもいますか。	□	はい	□	いいえ	□	わからない	□	その他
質問4 今後も日本事情科目は必要だとおもわれますか。	□	はい	□	いいえ	□	わからない	□	その他
「はい」とこたえた方にお尋ねします。それはどうしてですか。	□	役に立つ内容だから。	□	単位が取りやすいから。	□	外国語で実施されるので、授業が理解しやすいから。	□	その他
「いいえ」と答えた方にお尋ねします。それはどうしてですか。	□	日本人と一緒に受講できないから。	□	外国語ではうまく内容を伝えられないから。	□	留学生を特別扱いすべきではないと思うから。	□	その他
質問5 日本事情科目の実施形態についてお尋ねします。	□	単独	□	2～4名 交代等	□	5名以上 オムニバス形式	□	その他
質問6 Gコード科目は学部学生を対象としたものですが、学部の留学生は日本語能力試験1級合格が前提になっています。	□	留学生を確保するためにも、こういった留学生向けの授業科目は増やすべきである。	□	留学生、日本人学生といった垣根の無い授業科目を充実させることのほうが重要である。	□	留学生を特別扱いしているこのような授業は必要ない。	□	その他
質問7 日本事情科目について、何か意見があれば自由に書いてください。								

ご協力ありがとうございました。

教員からのコメント

- ▷ 何が必要なのか明確でないし、なんらの専門性も求められてもいないようで…。（Ｑ１－いいえ）
- ▷ 日本人も聴講できるようにしてはどうか？外国人だけと限定するのは良くないと思う。（Ｑ１－いいえ）
- ▷ 自然科学系の日本事情という講義を担当したが、講義設定の趣旨が理解できていないので、留学生にとって何のために必要なのか解らない。（Ｑ１－いいえ）
- ▷ ほぼ日本語。専門的に重要な用語や表現を英語で並列説明。（Ｑ２）
- ▷ バラツキがある。（Ｑ３）
- ▷ 学生によるので、決められない。（Ｑ３）
- ▷ 必要不可欠とまではいえないと思う。（Ｑ４－いいえ）
- ▷ 本来の本講義の趣旨である、所属学部で学ぶための「日本事情」を伝えるのであれば必要である。そのためには留学生のニーズを調査し、それに基づいてカリキュラムを作成

する何らかの組織による運営が必要であると思われる。（Ｑ４）

- 受講する留学生にどのような知識が必要なのか、必ずしも明確ではないため、判断しづらい。（Ｑ４）
- この質問の意味がわからない。（Ｑ５）
- 授業科目を増やすことには慎重であったほうが良い。（Ｑ６）
- この質問に答える前に、自然科学系の日本事情を担当したが、文系の学生に対するいわゆる“教養科目”なのか、自然科学系学生に対する“専門基礎科目”という趣旨なのか、講義の目的をもっとハッキリさせる必要がある。（Ｑ６）
- 方針としては、垣根のない講義が好ましいかも知れないが、これも、受講生の力に左右される。特定の方針を決めれば、増やすのもいいと思う。留学生はやはり特別な側面をもつことを忘れてはならない。（Ｑ６）
- 留学生の日本語能力にかなりの差があるので、判断しづらい。（Ｑ６）
- 教員の余分な負担と思っている方が多いと思います。しかし、留学生にもいい講義を提供したいとも思っている方も多いと思います。難しいところです。
- 各講師の内容が、多様、多岐にわたり、留学生としては、一般教養的側面で理解するよりほかないように推測されます。ある程度テーマを決めて実施する方が良いと思います。
- オムニバス形式は、広い知識を持ってもらうために効果的な方法だが、担当教員相互の意思疎通が十分でないことが多く、留学生対象ということで、ある教員は簡単な（具体的だがうわべだけの）内容、別の教員は基礎的な（しかし抽象的で把握しにくい）内容、というようにバラバラになりがちである。また、先入観からか、日本語の発話中に英単語を不自然に交ぜる教員もいるが、留学生の多くがアジア諸国の出身であることから、むしろ逆効果になっている。留学生に対する講義のポイント（外国人に講義する際の留意点）、のようなマニュアルが用意されていると、単発的に担当する教員にとって有益だと思う。
- 日本に来ている留学生はほぼ例外なしに（言語習得能力は関係なし）日本に対して何らかの興味を持っている。日本の政治だったり、経済だったり、文化だったりするが。それらのことがらを優しい日本語で教える必要はあると思う。専門的なことがらではなく、常識、教養の範囲で構わない。
- 留学生が各自の専門分野以外の内容を通常速度の日本語で講義され理解することは現実的にほぼ不可能。したがって、留学生のみを対象にして広範な内容を平易な日本語で解説している当科目は必要である。
- 単位取得のため授業を受けていると思われるが、果たして彼（彼女）らの知的好奇心を満たしているか否かが極めて疑わしいから。
- 頻繁に変えないほうが良い。留学生だけで受講し多くの教員によって行われる、広く浅い内容の授業は少数あっても良い。
- 留学生が新潟大学になじむためには、まず留学生どうしが友人になりあうことが必要だ

と思います。その点で、日本事情の科目は、日本について知るだけではなく、留学生の友人を得ることによって種々の履修情報や生活情報を入手できますし、場合によってはお互いに助け合う人脈づくりの場となります。異国で頼りにできる友人がいるという安心感があれば、日本人の友人も少しずつ増えていくと思います。日本事情科目は不可欠の科目ですし、もっと増やすべきだと思います。

▶ １．全ての留学生にとって必要かは疑問であるが、日本語の訓練はともかくとして、日本社会の基礎的理解には好ましいものである。

２．講義内容については、センター主導で、内容への注文をつけてもいいのではないかと思う。例えば、生活する上での基礎的法知識を講義して欲しいとか、日本政治を理解するための基礎的情報を講義して欲しいなどである。そうでないと、いわゆる世話人の趣味やスタッフの遣り繰りだけで、講義の内容が決められてしまう危険がある。現在では状況が変わってしまったのかも知れないが、かつてはそうした危険性があったと思う。

３．また、日本事情を日本人学生との共同講義にして、日本人学生には多文化理解の実践の場として位置づけて、課題を担うなどの方法も考えられるのではないか。

４．こうした講義を出すことに対しては肯定的であるが、大学全体の留学生ポリシーをどうするのかが明であればいいが、不明確なまま（少なくともこれまでの新潟大学執行部のお家芸である中途半端なまま）で折角良い内容の講義を提供しようとしても、国際センタースタッフが疲労倒れで終わる危険があり、その点を国際センターとして確証をする必要があると思う。また、こうした科目を分担する教員にとっても、空しい作業にならずに済む。もちろん、現在の方針が明確であれば全く問題はない。

▶ 以前から指摘されていることだが、日本事情科目の内容やレベルについて、全学で方針を定めた方が望ましい。現在は、担当者にその内容を一任している。なお、年によって受講する学生のレベルがまちまちであるので、講義する側には毎年多少なりとも戸惑いがある。また、年により、受講する学生数が大幅にかわるのも問題で、各学部では所属する留学生が日本事情系の科目をとることを前提にカリキュラムを組むべきだろうと思われる。とりわけ、本年度は、日本事情社会系Ａについては、受講生が１名であり、しかも日本語能力が低い学生のため、途中から出席をしていないと報告を受けている。このような状態が続くのならば、開講する必要はないように思われる。

▶ 日本事情は日本語で実施しました。そのように講義するように担当者から連絡がありました。上の質問項目を見ると外国語で実施とありますが、これは統一されないのでしょうか？

▶ 毎回レジメを渡していて、授業の最後に15分ぐらいとって、感想を書かせているが、ほとんど日本語になっていない文章を書く方もいれば、しっかりした表現を用いる方も居て、結構、楽しんでいます。ただ、理解したのではなくて、電子辞書を屈指してレジメを読んで、感想文を作っている学生が一般的で、レジメから抜粋しただけといういい加減野放図な学生もいます。

- 留学生の多くは、日本語が１級であっても、日本についての知識が不足しているので、このような科目で専門学部以外の知識を提供するのは意味がある。また、留学生が、多くの教員に接することも、日本について理解してもらうのに有効であろう。留学生を確保するという目的でこの科目をというのは、ちょっと違うように思うが、日本の大学に来ている留学生に、日本を知ってもらうことは、受け入れている大学の責務だと思うので、こういった留学生向けの授業科目は増やすべきだと思う。外国の大学に長期に滞在した経験からみても、大学が提供してくれているこの種の科目で、いろいろなことを知り、いろいろな人と出会えるのは有効だと思う。留学生、日本人といった垣根のない授業の充実をという意見は、普通にやっている一般の授業が充実していないとの認識だろうが、それは別の問題だろう。留学生をトータルとして日本に受け入れる、そのほんの一部でしかないが、意味のある科目だと思う。

留学生向けアンケート

これまでに日本事情科目を受講した学生に聞きます。

質問1	留学生にとって必要な授業科目だと思いましたか。	□ はい	□ いいえ	□ わからない	□ その他
	「はい」とこたえた人に聞きます。 それはどうしてですか。	□ 日本についての基礎知識が身についたから。	□ 卒業に必要な単位が簡単に取れたから。	□ どうしても聞きたい内容だったから。	□ その他
	「いいえ」と答えた人に聞きます。 それはどうしてですか。	□ 日本人と一緒に受講できないから。	□ 内容がつまらないから。	□ 日本語で実施していないから。	□ その他
質問2	授業は何語で受講しましたか。	□ 日本語	□ 英語	□ 日本語と英語	□ その他
質問3	自分を含めて、受講していた留学生は授業内容を理解していたとおもいますか。	□ はい	□ いいえ	□ わからない	□ その他
質問4	今後も日本事情科目は必要だとおもいますか。	□ はい	□ いいえ	□ わからない	□ その他
	「はい」とこたえた人に聞きます。 それはどうしてですか。	□ 役に立つ内容だから。	□ 単位が取りやすいから。	□ 外国語で実施されるので、授業が理解しやすいから。	□ その他
	「いいえ」と答えた人に聞きます。 それはどうしてですか。	□ 日本人と一緒に受講できないから。	□ 内容がつまらないから。	□ 外国語で実施されるので、日本語の練習にならないから。	□ その他
質問5	受講した日本事情科目の実施形態は･･･	□ 単独の教員で	□ 2～4名の教員で交代等	□ 5名以上の教員でオムニバス形式	□ その他
質問6	日本事情科目について、何か意見があれば自由に書いてくだ				

ありがとうございました。

留学生からのコメント

- 最初に受講した日本事情は教科書だけ読んでちょっとつまらなかったが、日本事情人文系を受けたら、いろいろ交流ができて面白かったです。できれば教科書だけを読まずに、いろいろ話したりしたほうがいいと思います。
- いつも日本事情科目授業の時間は専門科目授業の時間とぶつかりますが、一科目しか取りませんでした。とても残念でした。
- 留学生にとっては日本事情科目はとてもありがたい存在だと思います。留学生の中には普通の授業で使用されている日本語についていけなくて単位が取れない人もいます。日本事情科目だと使用される日本語が簡単なので安易に理解できて単位を取ることができます。
- 中心はもっと‘日本’においたほうがよいとおもいます。

Ｇコード科目授業アンケート結果（一部抜粋）

※以下の表の中にnaとあるのは、アンケートを実施しなかったことを示す。

人文Ａ

テーマ	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	57.1	42.9	0.0	0.0	7/8
2004（16）	85.7	14.3	0.0	0.0	7/9
2005（17）	28.6	57.1	14.3	0.0	7/8

内容	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	57.1	42.9	0.0	0.0	7/8
2004（16）	42.9	42.9	0.0	14.3	7/9
2005（17）	42.9	28.6	14.3	14.3	7/8

満足度	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	少し不満	回答数/受講者数
2003（15）	85.7	14.3	0.0	0.0	7/8
2004（16）	57.1	28.6	0.0	14.3	7/9
2005（17）	28.6	42.9	28.6	0.0	7/8

人文Ｂ

テーマ	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	na				
2004（16）	na				
2005（17）	83.3	16.7	0.0	0.0	6/8

内容	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	na				
2004（16）	na				
2005（17）	66.7	16.7	0.0	16.7	6/8

満足度	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	少し不満	回答数/受講者数
2003（15）	na				
2004（16）	na				
2005（17）	33.3	50.0	16.7	0.0	6/8

レベル	難	やや難	ちょうど	やや易	易	回答数/受講者数
2003（15）	na					
2004（16）	na					
2005（17）	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	6/8

社会A

テーマ	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	33.3	66.7	0.0	0.0	6/6
2004（16）	88.9	11.1	0.0	0.0	9/10
2005（17）	100.0	0.0	0.0	0.0	6/9

内容	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	50.0	33.3	16.7	0.0	6/6
2004（16）	88.9	11.1	0.0	0.0	9/10
2005（17）	50.0	50.0	0.0	0.0	6/9

満足度	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	少し不満	回答数/受講者数
2003（15）	50.0	50.0	0.0	0.0	6/6
2004（16）	100.0	0.0	0.0	0.0	9/10
2005（17）	50.0	50.0	0.0	0.0	6/9

社会B

テーマ	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	na				
2004（16）	76.2	14.3	9.5	0.0	21/27
2005（17）	50.0	45.5	4.5	0.0	22/22

内容	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	na				
2004（16）	57.1	38.1	4.8	0.0	21/27
2005（17）	36.4	45.5	18.2	0.0	22/22

満足度	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	少し不満	回答数/受講者数
2003（15）	na				
2004（16）	90.5	9.5	0.0	0.0	21/27
2005（17）	45.5	54.5	0.0	0.0	22/22

自然A

テーマ	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	40.0	40.0	20.0	0.0	5/6
2004（16）	75.0	25.0	0.0	0.0	8/8
2005（17）	na				

内容	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	60.0	40.0	0.0	0.0	5/6
2004（16）	87.5	12.5	0.0	0.0	8/8
2005（17）	na				

満足度	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	少し不満	回答数/受講者数
2003（15）	40.0	40.0	20.0	0.0	5/6
2004（16）	87.5	12.5	0.0	0.0	8/8
2005（17）	na				

自然B

テーマ	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	na				
2004（16）	na				
2005（17）	62.5	25.0	12.5	0.0	8/8

内容	良	やや良	どちらともいえない	やや悪	回答数/受講者数
2003（15）	na				
2004（16）	na				
2005（17）	37.5	62.5	0.0	0.0	8/8

満足度	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	少し不満	回答数/受講者数
2003（15）	na				
2004（16）	na				
2005（17）	50.0	50.0	0.0	0.0	8/8

レベル	難	やや難	ちょうど	やや易	易	回答数/受講者数
2003（15）	na					
2004（16）	na					
2005（17）	12.5	25.0	50.0	0.0	12.5	8/8

7．反省

今回のアンケートは教員用も留学生用もすべてメールで発送したが、学生の通常利用しているアドレスを知る方法がないために、学務情報のメーラーにのみ発送した。そのため、おそらくアンケートの存在自体に気付いていない留学生もかなりの数に上ったのではないかと思う。今回の調査は予備調査として扱い、次回再度学生側の声を吸い上げたいと思う。

8．謝辞

授業その他で忙しい中、真剣にアンケートに回答を寄せてくださいました先生方のご協力に心より感謝いたします。また、わずかではありますが、後輩のために貴重な意見を寄せてくれた留学生諸君にも感謝いたします。この調査を日本事情科目の授業改善のためになんとしても生かしたいと思います。